

## 大阪市立市岡東中学校

# 元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。最近コロナの感染状況が、劇的に好転して本当に良かったですね。欧米などは逆に悪化しており、各国政府はその対策に頭を痛めていると聞きます。日本がそんなにも好転している原因が不思議とされていますね。確かに①ワクチン接種の浸透、②マスク・うがい・手洗いの徹底、③飲食・観劇・旅行などの行動規制も素直に守る国民性などが考えられていますが、ひょっとしたら「アマビエ様」のおかげかもね。

しかし長い規制で経済的には多くの国民が困窮しています。第2次岸田内閣も先々週に過去最大となる55兆円超の経済対策を決めました。この対策を聞いて私は江戸時代の松平定信の「寛政の改革」を連想しました。1783年の浅間山の大噴火などで飢饉が続き、田沼意次の後を受けて8代将軍吉宗の孫である松平定信が改革に着手します。彼は始めるにあたり、改革の成功を祈願して「願文」を奉納しました。そこには「仁の恵みが行き届き、世の中の立て直しが成就しますように…」とありました。「仁」とは儒教の教えの一つで「他人に対する情や優しさ」を意味します。また現在の「経済」の語源となった「経世済民（世の中を経め民を済う）」の考え、つまり民がなくては事態が収まらないとして改革をしました。そして、困窮者や障がい者のための「養育院」の設立、無宿人のための職業訓練をする「人足寄場」も作ります。また飢饉や災害のため「七分積立」として町会費を備蓄させます。これは明治政府に受け継がれ、その額は金62万両、土地1700ヶ所、米と穀4万石でした。この活用に携わったのが新一万円札の肖像画となる「渋沢栄一」でした。栄一も社会的弱者に手を差し伸べた松平定信に畏敬の念をもち、執務室に置き「座右の銘」としました。結局定信はあまりにも厳しく質素儉約を強制したので、民衆や大奥や幕府内からも反発にあって無念の失脚をしてしまいます。

何事も「やりすぎ」は反発を買ってしまうものなのでしょうね。新しい岸田内閣も是非「経世済民」の政治を期待します。

### 3年生のみなさんへ

期末テストも終わりホッとしている人も多いでしょうが、決して油断してはいけません。実力テストや期末テストが返却されたら結果だけ一喜一憂するのではなく、もう一度よく検証しましょう。それがとても効果があるのです。

12月の元気アップ学習会の締め切りは終わりましたが、「ちょっと頑張ってみるか」と今からでも参加したい人は是非申し込みをしてください。